



株式会社イイダ

@Tovas導入で、FAX送信にかかる時間と運用管理工数を大幅に圧縮

UT/400と連携し、System iの帳票データを直接FAX送信

トランザクション量の増加に伴い FAX配信の問題点が顕在化

複合機やプリンタ、パソコンなどのOA製品の開発・設計から製造・販売までを一貫して手がけるイイダは、2005年5月に、日本IBMの「HATS」を使った生産系および販売系システムのGUI化／Web化とアイエステクノポートのスパール運用管理ツール「UT/400」による帳票業務の高度化・効率化を実現した。この詳細は、弊誌2006年春号でレポートしたが、同社はその後、上記システム化の続きとして、今年4月にコクヨのFAX配信ASPサービス「@Tovas」を導入、System iデータの帳票化から帳票データの外部送付へつながる一連の作業を大幅に効率化させている。

同社の事業展開の特徴は、国内外の生産拠点(国内5拠点、海外2拠点)を連携させ、コスト、スピード、品質の面で最適となる提案型ビジネスを展開している点である。

例えば、設計や開発、製品の信頼性試験やコアになる部分の生産、ジャストインタイムの生産、部材調達などは日本国内で行い、グローバル製品やグローバル価格に対しては海外調達・海外製造を行い、それぞれのメリット生み出している。

部品の調達先は、国内外合わせて約500社。調達の比率は国内60%、海外40%だが、海外の比率が年々高まっており、さらに海外で調達し、その部品を使って海外で生産するケースも急速に増加している。

また、スピードアップが最近の顕著な傾向で、「かつては月1～2回の受注・内示だったが、ここ数年では毎週、多い時は毎日のように内示があり、それ

と並行して生産を確定していく状況です。その分、部門間やグループ会社、仕入先との間でトランザクションが急激に増えています」と酒巻康次 執行役員 経営管理本部システム部部長は説明する。

500社ある仕入先への発注は、従来、IBMの「ファックスディレクター」(ソフトウェア)と「FAX Server」(ハードウェア)を使い、System i上で作成した発注データをダイレクトに相手先ファクシミリへ送信する方法で行っていた。

このファックスディレクターとFAX Serverは数年前に生産中止とサポート終了になっているが、「ほかに適当な代替手段がないこともあり、また安定したシステムだったのでそのまま使い続けていた」(酒巻氏)という。

ただし、取引先との連絡や発注のためのトランザクション量が増えるに伴い、問題が顕在化してきていた。それは、FAX送信に時間がかかり過ぎる、不達であった場合の対応処理に負荷がかかり過ぎる、という問題である。

「以前は、毎週末にまとめてFAXしていましたが、開始から終了まで7～8時間もかかり、夜半に終了するという状況でした。そのため、相手方のFAX機が紙切れを起こしたり不具合があると不達となってしまう、弊社のほうも月曜に出勤してそれを確認し再送するという対応で、非常に手間と時間のかかるシステムとなっていました」と経営管理本部システム部I/Tの野崎修代 課長は語る。つまり、使い続けてはいたものの、その問題点を強く認識し、代替手段を



酒巻康次氏
執行役員 経営管理本部
システム部部長



野崎修代氏
経営管理本部
システム部I/T 課長



鈴木美奈氏
経営管理本部
システム部I/T リーダー



大山口 智氏
経営管理本部
システム部I/T

継続して求めていたということである。

既存システムへのアドオンで@Tovasを導入

こうした中、2006年7月にコクヨがSystem iのアウトプットを直接FAX送信するASPサービスを発表。イダではただちにこれを検討して採用を決定、2007年4月にサービスインした。従来のFAX送信に対する同社の危機意識の高さを示す、スピーディな導入である。

System i向け@Tovasは、アイエステクノポートのUT/400-iPDCと組み合わせて利用する。System iのスプールファイルを基にUT/400-iPDCでPDF化したデータを、@Tovasがコクヨのデータセンター側で受け取り、FAX送信する仕組みだ。

@Tovasの特徴は、ユーザー側にFAX送信のための機器類を導入する必要がなく、System iのアウトプットデータを直接FAX送信できる点である。送信結果のログ管理や送達の確認はSystem i上でユーザーが行うことができ、送信状況の監視や運用は@Tovasのデータセンター側が24時間365日担当する。@Tovasの導入によって、懸案の課題が一挙に解決することになった。

送信時間の短縮、運用負荷の削減

1つは送信時間の短縮である。従来7~8時間かかっていた送信が数十分で済むようになった。これは、従来が2回線であったのに対し、@Tovas側のほうは100本以上の回線に対応することによる。「以前は金曜に送信すると、取引先の大半が週明けから対応に着手していましたが、現在は数十分の送信で済むので金曜中の対応が可能となり、調達のスピードアップに貢献しています」と酒巻氏は評価する。

もう1つの効果は、運用負荷の激減である。「従来

は不達があるかどうかを目視で確認し取引先への確認や再送作業を行っていましたが、現在は@Tovas側からメールで通知され、不達の原因も正確に特定されるので安心して運用できるようになりました」と経営管理本部システム部/ITリーダーの鈴木美奈氏は言う。

同社は今、今回のFAX送信に加えて、UT/400-iPDCと@Tovasの連携によるファイル送信サービスの導入も計画 중이다。

「紙のFAXよりもファイル送信の方がよい場合も少ないので、弊社から取引先への送信メニューの1つに加えます。また、これにより、送信コストの大幅な低減も図る計画です」と酒巻氏は語る。

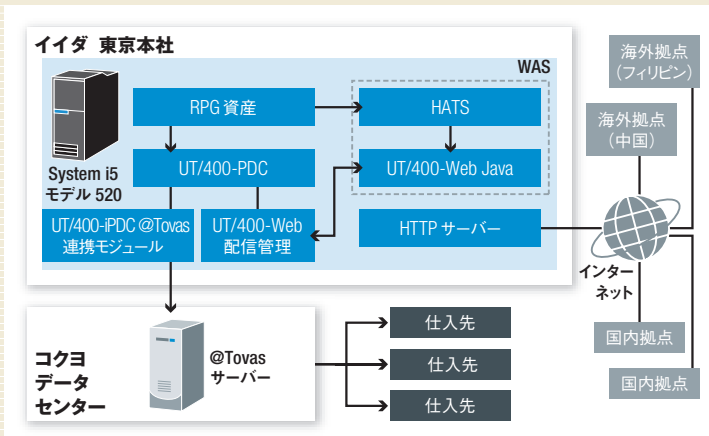
通常、発注書の電子化というと、下請法で「書面による通知」(Fax含む)が義務付けられている点に気がなるが、@Tovasのファイル送信は下請法定義の「電磁的記録による文書の交付」の条件を満たしているため「コンプライアンス上も問題なく導入できる」と酒巻氏は説明する。

同社では、2005年のHATSとUT/400によるシステム改築でユーザーの利用環境と帳票運用管理の高度化を実現した。Webアプリケーションの面では今後、日本IBMの「CS/Bridge」を使ってHATSで構築したシステムを全面改築する予定。

「今後は自由度の高いCS/Bridgeを使い、国内外合わせた使いやすい独自のB2Bシステムを構築する」(野崎氏)狙いだ。

一方、UT/400により帳票の利用環境が大きく改善された。ユーザー向け帳票の設計・開発を担当する大門口 智氏は、「従来のドット形式の帳票と異なり、カラフルできめ細かくデザインできるため、ユーザーや取引先にも非常に使い勝手のよい帳票を作成できるようになりました。またこれよりプリンタ統一や指定伝票の廃止など含め運用コストも減りました」と語る。

UT/400-iPDCと@Tovasの連携によるファイル送信への対応やCS/Bridgeによる全面改築など、同社のイノベーション・システムはまだ継続中である。❶



図表 FAX配信ASPサービス「@Tovas」を利用したイダのシステム概要

- 創業: 1956年
 - 資本金: 9600万円
 - 従業員: 500名(グループ合計1500名)
 - 売上高: 200億円
 - 概要: 複合機メカユニット・オプションユニット、複合機/プリンタ用サブカード、パソコンフレキシブルケーブル、無線アンテナ、印刷装置などの開発・製造国内に5工場、海外に2工場を持ち、全世界で事業展開する。
 - http://www.iidagroup.net/
- company profile